



特集

新学期から始める 学習習慣づくり

新学期を迎えました。入学・進級した子どもたちの心は、新しいことを始めたいという意欲に満ちていることでしょう。この時期に、国語学習への期待感をもたせ、よりよい学習習慣を身につけさせたいものです。

本特集では、国語の学習習慣づくりの基礎・基本について、吉永幸司先生（前京都女子大学教授）にご提言いただきます。また、その具体的なアイデアを三名の先生方からご紹介いただきます。

提言

学習習慣づくりの基礎・基本

前京都女子大学教授

吉永幸司



1940年、滋賀県生まれ。滋賀大学附属小学校教諭として26年間勤務。著書に、『吉永幸司の国語の強化書』『吉永幸司の国語指導入門』（教育技術MOOK／小学館）など多数。光村図書小学校『国語』教科書の編集委員を務める。

学習習慣を支える 国語の力

学習習慣は、学校生活を送るうえで基本となるものです。授業が始まる時、教科書やノートの準備ができている、先生や友達の話聞くという姿勢になっている、という習慣が学校生活には欠かせません。このような習慣を支えるのは国語の力です。なぜなら、学校生活の多くは言葉を通して考え、行動をする場だからです。先生の指示を聞いたり、自分の行動や気持ちを言葉で表したりするなど、言葉をふんだんに使って生活しています。

入門期の『国語』教科書は、挨拶や返事をする、主語・述語の文型で話すなど、言語生活の基本を指導するようになっています。これらは、言葉で豊かな生活をする基本となる力なので、一年生のこの時期に、ぜひ身につけさせたいものです。国語の学習内容が日々の生活と直接結びつくことを

自覚させると、授業への取り組み方が変わるでしょう。

目標を自覚させ、 学習習慣の形成を促す

四月の授業びらきで、一年間の学習目標を明確にしましょう。学年末にはどんな力を習得しているかを明確にすると、学習態度に勢いが出てきます。それが学習習慣の形成を促します。目標づくりの有力な手がかりは、教科書です。冒頭の「目次」「学習を見わたそう」「いつも気をつけよう」や、巻末付録の「たいせつ」のまとめ」などは、習得すべき学習内容を示しているので、これらを活用するとよいでしょう。

「書くこと」を大切にしたい 学習習慣づくり

国語の授業は、学習成果が分かりにくいといわれています。「話すこと・聞くこと」は、学習活動の再現が難しく、「読むこと」

は、浅い読み・深い読みが分かりにくいという側面があります。その中で、学習履歴が残り、成果が分かりやすいのは、「書くこと」です。日記・学習ノートをはじめ、書く場は多様にあります。「書くこと」は、語彙力や表現力を高めるとともに、集中力や思考力を育てます。時間と手間を必要とするので、敬遠されることもあります。が、「書くこと」を大切にしたい学習習慣づくりを心がけたいものです。

* * *

本特集は、低・中・高学年別に、新学期から始める学習習慣づくりの方法をご紹介します。低学年編は、「その子がその子になれる時間を大切に」「中学年編は、「安心と刺激」、高学年編は「仕切り直し」をキーワードに、教室づくりをスタートします。それぞれのクラスの状況に応じたキーワードを考えながら、学習習慣づくりを始めてみましょう。